

を爲し(第二圖參照)、最下層では其の後定期的の水害を被つた畑地の中にサラ
ング Salang 川を併せたゴルバンド川とシュツール Shoutouli 川を併せたバンヂ
ール川との河床を露はし礫石が散在してゐるが、其の上層には十米突又はそ
れ以上の石灰斷崖を爲す古代の湖床が出て、それが其の下層の地を圍んで
る。此の沖積層地の表面は肥沃であつて、農産には只だヒンヅクーシュ山脈
から出る谷川の出口から溝を掘つて灌漑するだけで充分である。最上層には
古代の湖岸であつた岩石 *dash* の緩斜面が露はれ、引水溝の水準よりも高くな
つてゐるが、相當長期に亙る雪解けの水で處々に濕地を生じ綠草が茂つて
る。此の状態はパンガーン山脈に沿ふ處では特に著しく、其の邊では昔バー
ブール Babour 帝がイスタリフ Istalif, イスタルギヂ Istarghidj, クワーヂャ・セ・ヤ
ーラーン Khwâdjah-Seh-Yârân などのお花畑を賞したものである。(Dr. A. Beveridge
譯 *Memoirs of Babur* 第二卷二一六頁參照)此の山脈に沿ふ最初の斜面には數多
の佛教建築があつたものである。其の他多くのものは(首都にあつたものまで
言はないにしても)沖積層高地(カシユミールでカレワ Karéwa と云ふ處)に建て